

住宅火災を防ぐため 10のポイントを確認し「命」を守ろう

これからの季節は空気が乾燥し、火災が発生しやすくなります。
たばこの不始末や暖房器具の使い方など、火災の原因はさまざまですが、近年では電気器具からの火災も多数発生しています。
総務省消防庁から自宅での住宅火災を防ぐため、住宅防火いのちを守る10のポイントが掲げられています。

11月9日～15日は秋季全国火災予防運動期間
「お出かけは マスク戸締り 火の用心」
(2022年度全国統一防火標語)

住宅火災における死者数の約7割が 高齢者・たばこの不始末が原因です

総務省消防庁が発表している令和3年における火災の概要(概数)によると、全国の総出火件数は35,077件あり、これは1日あたり96件、15分ごとに1件の火災が発生したことになります。火災種別でみると、建物火災が19,461件、林野火災が1,228件、車両火災が3,494件、船舶火災が62件、その他火災が10,832件で、「建物火災」のうち54.8%の10,656件が「住宅火災」であることがわかっています。また、建物火災を出火原因別に見ると、「こんろ」2,603件、「たばこ」1,703件、「電気機器」1,398件の順となっています。

建物火災による死者数は火災による死者1,152人のうち、住宅火災(一般住宅、共同住宅及び併用住宅)による死者が999人で86.7%を占めています。なお、放火自殺者等を除いても913人が亡くなっています。

住宅火災による死者数を年齢別で見ると、65歳以上の高齢者が682人で、913人のうちの約7割にあたります。住宅火災における火元出火原因別死者数をみると、「たばこ」による死者数が最も多く、次いでストーブ、放火の順となっています。

このような結果から、住宅火災における火災発生はたばこが原因である事が多く、また火災による死者として高齢者が最も多くなっている事が分かります。火災発生の原因や経過を見ても、人為的なミス(ヒューマンエラー)である事がとても多く見られます。特に、「たばこの不始末」には厳重な注意が必要なが分かります。寝たばこは絶対にしない、させないようにしましょう。

お問い合わせは予防課
☎459-7803へ

住宅防火

いのちを守る10のポイント

習慣1   寝たばこは絶対にしない、させないようにする

習慣2   ストーブの周りに燃えやすいものを置かない。給油時は必ず火を消す

習慣3   こんろから離れる時は、必ず火を消す。周辺に燃えやすいものは置かない

習慣4   コンセントは、ほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く

対策1  ストーブやこんろ等は、自動で火を止めてくれる安全装置がついているものを使用する

対策2  火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する

対策3  部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは防火品を使用する

対策4  初期消火の限界は天井に火が届くまでです。火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認する

対策5  お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく

対策6  防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

防火品を使用


正常な場合は? 正常をお知らせするメッセージまたは火災警報音が鳴ります。
 ビービービー ビービービー 火事です
ボタンを押す ひもを引く
注)警報音はメーカーや製品により異なります。

広告